

【R2:情-1】 道路等包括管理事業の効率化方策の検討事業調査 (実施主体:東京都府中市)

東京都府中市 基礎情報(R3.1.1時点)
 ・人口:260,255人
 ・面積:29.43km²

【事業分野:道路】 【対象施設: 市内市道全線】 【事業手法:包括的民間委託】

調査のポイント

- ① 市全域で実施する道路等包括管理事業(本事業)で得られる道路施設の管理データを活用するため、案件の進捗状況を**複数の事業者と市職員が地図上でリアルタイムに共有できる支援システム**の導入検討(市職員と事業者の**リアルタイムな情報共有ツールを実現**)
- ② これまで本事業で得たノウハウをもとに、支援システムから自動的に出力可能な**「報告書の様式」を規定**(**報告書自動作成機能(RPA)を具備**)
- ③ 市が保有するインフラマネジメントシステムに、支援システムが扱う**管理データを登録するための方法を設定**(**情報共有基盤の整備**)
- ④ 今後はAIを活用する舗装劣化予測・補修計画自動作成を始めとする最新のデジタル技術により蓄積した**管理データを、官民連携により有効活用**できるよう、汎用性の高い**「標準化インターフェイス」を導入**(**「道路管理における各種データ管理の方向性」を設定**)

事業/施設概要



目的・これまでの経緯

【調査の目的】

- ① 本事業の運営やマネジメントと作業報告や作業管理における市職員と事業者の負担の軽減
- ② 本事業の管理データを市職員と事業者が共有できる支援システムの導入と将来に必要な機能の基盤準備
- ③ 本事業の記録をIoT(支援システム導入)、RPA(報告書自動作成)等で効率化、記録データのインフラマネジメントシステムへの保存・活用による省力化
- ④ 本事業における各種管理データの運用を簡易にするルールの確立

【これまでの経緯】

- H23: 先導的官民連携支援事業(H23先-01)
→府中市インフラマネジメント白書・計画策定
- H26~H28: けやき並木通り包括管理事業(パイロットプロジェクトA=18.8ha)
- H27: 先導的官民連携支援事業(H27先-03)
→けやき並木通り包括管理事業の評価
- H29: 本事業推進方針策定
/インフラマネジメント白書・計画更新
- H30~R2: 現行包括管理事業(北西地区試行事業A=755ha)
- R2: 本事業運用方針策定
先導的官民連携支援事業(本調査)
- R3~R5: 次期包括管理事業(市全域)

【R2:情-1】 道路等包括管理事業の効率化方策の検討事業調査

(実施主体:東京都府中市)

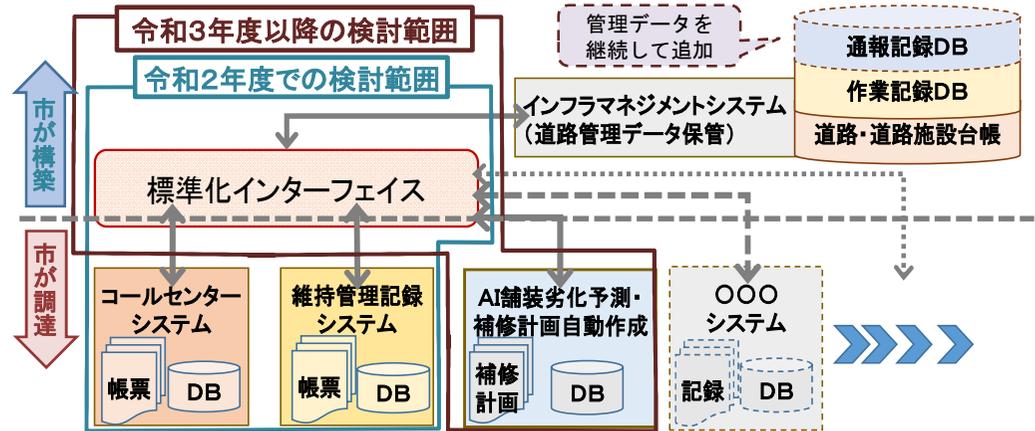
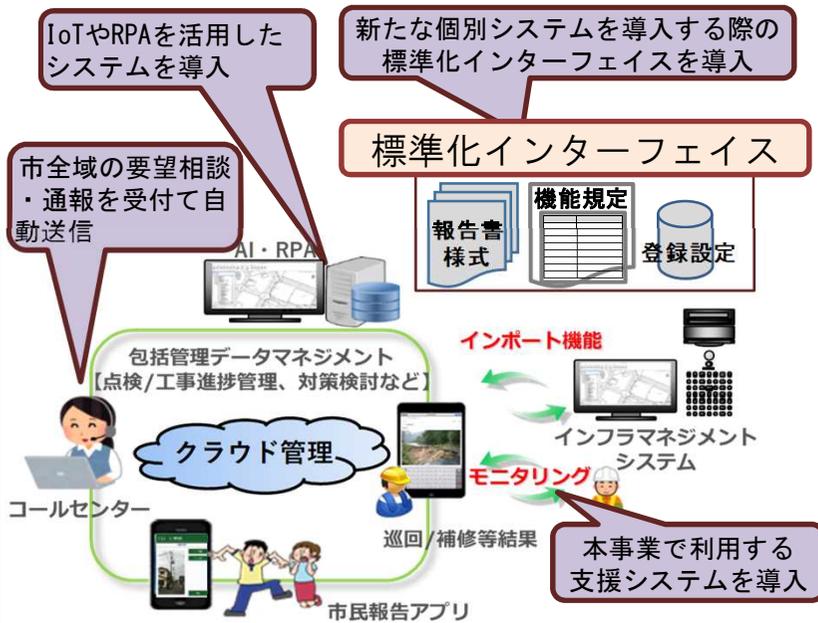
調査結果

【標準化インターフェイスを導入する利点】

- a. システムごとに異なるデータ構成や内容を仕様書に規定することにより効率的な管理データの構築が可能
- b. データ構造が規定されるため、時点の先進的なシステムの導入などへの柔軟性を付与

【本業務で実現した標準化インターフェイス】

- ・ 道路管理に必要なデータ項目を「報告書様式」として規定。
- ・ 支援システムに要求する機能を規定
- ・ インフラマネジメントシステムへのデータ登録方法を設定。
(データ管理の方向性に沿って段階的に実現<AIを活用する劣化予測・補修計画の自動作成の導入など>)



【道路管理に係る各種データ管理の方向性】

- ① 道路の維持管理の効率化と情報の共有化を図るため、本事業に支援システムを導入し、蓄積される管理データをインフラマネジメントシステムに登録することで、既存のデータと併せ情報共有基盤を実現する。
- ② AIを活用する劣化予測・補修計画の自動作成を始めとする最新のデジタル技術により蓄積した管理データを、官民連携により有効活用できるよう、汎用性の高い標準化インターフェイスを導入する。

事業化に向けた今後の展望

道路管理効率化メニュー	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
包括管理事業	北西地区	市全域			市全域
道路データ管理	効率化検討(標準化I/F)	AIによる舗装補修計画自動作成の検討	自治体による共同運営データ管理体制検討	AIによる舗装評価・計画試行実験	AIによる舗装補修計画導入
道路管理調査		路面性状調査	道路巡回画像取得		巡回画像更新
メンテナンス記録	北西地区メンテナンス記録	過年度メンテナンス記録のデジタル化 市全域 マネジメント記録			
インフラマネジメントシステム		システムのリプレース			
市民通報システム		導入可能性の検討(公共施設・公園・道路)			